

学校自己評価

園の目標

仏教環境のもと人格形成の基礎を培い、自ら感じ、自ら考え、自ら行動することのできる子供を育てる。

I、教育の目標

- 正しい生活習慣を身に着けている子
- 人や生き物を愛することのできるあたたかい心の子
- 知恵、心、体がバランスよく発達している子をめざす。

II、本年の重点目標

- ・①教育活動の充実
- ・②教員の資質の向上・・・保健、健康、特別支援教育への理解
- ・③安全への取り組み

III、評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み状況
教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・和太鼓や民謡、茶道、昔話、季節の伝統行事など、日本の文化を楽しむ機会を多く持った。 ・英語や、体育、書き方など専門の講師を招き、楽しみながら課題に挑戦した。 ・毎朝、走ったり、体操、鉄棒、縄跳びなどをしたりするおはようサーキットを繰り返し、健康な体と心を育てる努力をした。 ・子どもたちで野菜を育てたり、食したりした。
教員の資質の向上	園外への研修に、積極的に参加し、実技や特別支援の知識を得て、日々の保育に活かすようにした。また、子どもの育ちについての情報を共有できるよう、報告の機会を多く持った。
安全への取り組み	<p>朝の迎え入れ時、門前にて職員が、歩道での安全確認や歩行者、自転車への注意等を指導。</p> <p>毎月、避難訓練を行い、火事、地震等の避難の仕方、避難時の注意などを繰り返し指導。スライドや紙芝居の視聴覚教材を用いて、子どもたちにも分かりやすく話した。地域の女性防災クラブのご協力で安全教室を開いた。</p>

IV、反省と今後取り組むべき課題

教育活動については、各担任が当園の教育目標に従い、計画的に進めていった。

子どもたちにいろいろな経験をしてもらおうとするあまり、子どもたちの生活が慌ただしくなっている時期があることも事実である。次年度は、行事の練習の多さによって、子どもたちの大切な遊びの時間が損なわれないよう、行事内容の見直しを図りたい。また、子どもたちが身のまわりの自然に、気づき、関心を持てるようになるために、まず、教師自身が自然の変化に気づき、子どもたちに発信していけることが大切であるので工夫、努力し、教師の資質の向上を図りたい。職員の自己評価では、園児に対する配慮は十分にしている実感があるが、保護者に対しての働きかけが不十分と反省する職員があった。また専門知識や技能の習得に自信のなさを感じているものもあったが、これは謙虚さの表れとも取れた。しかし各自、さらなる向上を目指して行く必要がある。